

イヨスダレガイ *Paratapes undulatus* (Born)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。県内でも潮下帯の環境が著しく悪化していて、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。1999年からの3回(30地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。2008, 2009年、名古屋港沖の潮下帯の砂泥底より普通に生貝が採集された(木村, 2010)。また近年、三河湾や伊勢湾で操業する底引き網(トリガイ桁網)漁船によって生貝が採集される頻度と個体数が明らかに増加している。明らかな回復傾向が認められたので、前回(VU)よりランクダウンすべき種と評価された。

【形態】

殻長約40mmで殻は前後に長い楕円形。殻はやや薄く、膨らみは弱い。殻表には光沢があり、殻頂部以外には赤紫褐色の放射状の網目模様がある。県内の本種(日本周辺に生息する個体群に共通)は、網目模様と地色のコントラストが弱く殻頂部の丸みが強く、成長脈とは別に殻表に前側背面から後側腹縁に向かって走る条線が弱い。本種はインド・太平洋に広く分布するが、海外の個体とは上述の特徴から区別できる。今後分類学的な検討も必要である。



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深10m), 2009年5月30日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少していたが、近年生貝の個体数も増加し、回復傾向が認められる。

【世界及び国内の分布】

日本、太平洋、インド洋。国内では房総半島以南に分布する。本州から九州に生息する個体と南方産の個体には殻形態に差異が認められるので、分類学的な再検討が必要である。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。近年、回復傾向が認められる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや2010(木村, 2010)では、本種と正しく同定された名古屋港沖産標本(上図)が図示されていた。レッドデータブックなごや2015(木村 加筆 川瀬, 2015)では“三河一色”産個体が図示されているが、前述したような特徴の相違から日本産個体ではない可能性が高い。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの大きな資料(データ)の一つなので、他産地の標本、特に形態的特徴が異なる標本は図示しないことが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.
木村昭一, 2010. イヨスダレガイ, p. 209. in: レッドデータブックなごや2010(2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. イヨスダレガイ, p. 434. in: レッドデータブックなごや2015 動物編, 285pp. 名古屋市環境局.

(木村昭一)